

第18回 いますぐできる、My 国際協力

パナソニック提供龍谷講座 in 大阪
～今、あなたに知ってほしい世界の現実～
2010 年度 社会貢献・国際協力入門講座

日時 11月17日(水)午後7時～8時30分
会場 龍谷大学大阪梅田キャンパス研修室
講師 青木 盛 社団法人日本キリスト教海外医療協力会(JOCS) 小児科医
 浅江 理香 社団法人日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)(<http://www.jocs.or.jp/>)
進行 合田 宏江・岡本 亜祐 特定非営利活動法人関西 NGO 協議会 インターン (<http://kansaingo.net/>)

本講座では世界が抱える様々な課題について知り、またそれらの課題解決に向けて、NGO などがどのように取り組んでいるかを学んできました。2010 年度講座最終回の今回は、海外医療協力に活用される「使用済み切手運動」をはじめ、今すぐ始められる国際協力をご紹介します。

国際協力は誰にでも気軽に始められる！

まず受講者は「いっちょさん度診断*」で、「普段の生活+ で国際協力」「お金の流れを変えて国際協力」「お家や地域で国際協力」「がっつり NGO 活動する」のどのタイプの国際協力が自身に向いているかを診断しました。

(*「いっちょさん度診断」についてはこちらをご参照ください。

http://www.kansaingo.net/campaign/img/pho/icchosansindan_paper.pdf)

次に、「今までしたことがある、または今行っている国際協力は何か」について受講者同士で話し合いました。話し合いは盛り上がりを見せ、外国の子どもを支援する、ペットボトルのキャップを集める、インターネットで商品を購入しポイントを集める、NGO の学生支部に関与する、ごみを最小限に減らすといった様々な意見が挙がりました。

その後、関西 NGO 協議会インターンが、今すぐ気軽に始められる国際協力の例として、以下をご紹介します。

フェアトレード商品を購入する、まわりに勧める

私たちの生活は、不均衡な貿易や経済の格差の上に成り立っています。フェアトレードは、途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することによって、立場の弱い人たちの自立と生活を改善することを目指します。また、私たちは商品を購入するだけでなく、例えば NGO のボランティアとして販売側に立つことで途上国に貢献することもできます。

フェアトレードを行っている NGO(例) 特定非営利活動法人シャプレーン(<http://www.shaplaneer.org/>)

特定非営利活動法人アクセス 共生社会をめざす地球市民の会

(<http://www.page.sannet.ne.jp/acce/>)

「もったいない」の気持ちを活かし、インクカートリッジを回収する

プリンターの普及により、現在年間約二億個のインクカートリッジが使用されています。その使用済みインクカートリッジを NGO などに送り、それを企業などが買い取り現金化されます。その現金を途上国支援に活用します。

インクカートリッジを回収している NGO(例) 特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス(<http://www.terra-r.jp/>)

ネットユーザーならほんの短時間でできる、クリック募金

募金ボタンをクリックするだけで NGO などに無料で募金ができます。わたしたちネットユーザーが支援したいと思う内容のものをクリックし、スポンサー企業がクリック数分を NPO などに寄付するという仕組みです。1 クリックあたり 1 円の募金が発生します。サイトによっては、実際にいくつのクリックがどれだけの寄付につながったのかを確認することができます。

クリック募金のポータルサイト(例)イーココロ(<http://www.ekokoro.jp/>)

使用済み切手を集めて海外医療協力

次に社団法人日本キリスト教海外医療協力会（以下 JOCS）の渋江さんから、使用済み切手運動の取り組みについてお話を伺いました。JOCS は使用済み切手の換金や寄付金を活用し、海外で医療支援を行っています。アジアやアフリカに医療従事者(ワーカー)を派遣したり、現地の医療従事者に奨学金を出したりしています。

集められた使用済み切手一箱 7.5 キロ（約 5 万枚分）を、12,000 円で切手収集家や業者が購入します。使用済み切手の購入希望者は多く、順番待ちの状況です。

使用済み切手が価値を持ち現金化されうる理由は、収集家が消印の位置や日付のぞろ目、絵柄などに注目したり、偶然入っている消印漏れの切手を目当てに購入するからです。価値を持った切手のぎざぎざの部分が損なわれたものは販売することができないので、その周りの部分 5 ミリ～1 センチを残して切ることを推奨しています。

「使用済み切手を切るときに、世界の子どもたちの笑顔を思い出したり、この活動がどのようにワーカーの活動に繋がっているのかを考えていただければ」渋江さんはそう述べました。使用済み切手一枚では小さな力だとしても、その一枚を沢山の人が集めれば、大きな力となるのです。

パキスタンへ医師を派遣

続いて、この使用済み切手を換金して得た資金や寄付金などで、パキスタン・イスラム共和国に派遣された青木さんから活動の報告をしていただきました。青木さんは、2007 年から 3 年間、パキスタン中部パンジャブ州ファイザラバードにある聖ラファエル病院で小児科医として、新生児医療に従事しました。聖ラファエル病院の患者は、主に妊産婦、新生児、医療を受けることが困難な貧しい人々で、青木さんが派遣されるまでは専属の小児科医はいませんでした。青木さんの派遣に伴い、2008 年には人工呼吸器が一台導入されました。その年には約 1,700 人の新生児が生まれ、約 40 人の重症新生児が無事に回復し退院することができたそうです。また、青木さんは週に 1～2 回、キリスト教徒の多い地域の訪問診療を行いました。パキスタンでマイノリティであるキリスト教徒は差別され、貧しくて病院に通えない人々が多いといえます。

聖ラファエル病院の新生児室には、手作りの保育器（木でできた枠にガラスがはめ込まれ、裸電球で中が温まる仕組み）が並んでいます。停電が多いので、常に保温できるよう、聖ラファエル病院では発電機を常備しているそうです。

パキスタンでの新生児医療の現状

パキスタンでは、出産時に母子共に危険な状態にさらされることが少なくありません。妊産婦死亡率は 10 万件中日本では 6 件であるのに対し、パキスタンでは 320 件です。また 5 歳未満児の死亡率は 1,000 件中日本では 4 件であるのに対し、パキスタンでは 89 件と大きな違いです。パキスタンの乳児死亡率は、日本の 1945 年に相当するそうです。

新生児死亡の原因は肺炎などの感染症や仮死、早産などです。妊産婦の栄養不良と関係がある低出生体重（出生体重が 2,500 キログラム以下の新生児）は、新生児死亡の要因の 60%～80%となっています。低出生体重児が生まれる原因は二つあり、一つは母親が感染症にかかるなどといった原因により、妊娠 6 ヶ月ほどで生まれてしまうことです。もう一つは妊娠 10 ヶ月で生まれたとしても、母親の栄養不足が原因で体重が少ないということです。また栄養不良が原因で亡くなる子どもが大勢います。

ポリオ（新生児がかかる手足が麻痺する病気）が撲滅していない国が世界で 4 カ国あり、その 1 カ国がパキスタンです。その理由としては、特にポリオが残っているアフガニスタンとの国境周辺は、爆弾自爆テロが多発しており、ワーカーが行きたくても行けない危険な場所だからです。またその周辺の部族地域では、風習によって、ワーカーがその地域に入ることを部族長が拒むこともあります。最も援助を要する地域にワーカーが赴任できない、というのが現状だそうです。

「新生児医療は非常にお金のかかるものであり、わたしたちの支援に対しても色々な意見があります。しかし、わたしにとってはたったひとつの命でも大切な命なのです。青木さんはそう、講義を締めくくりました。

2010 年度の講座も多くの方々に受講いただき、誠にありがとうございました。2011 年度も本講座を継続する予定です。引き続き、よろしくお願い申し上げます。

